

# 迎えて



立科町長  
両角正芳

あけましておめでとうございます。

町民皆様におかれましては、希望に満ちた輝かしい新春を、健やかに迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃は、町政運営に対し温かいご理解とご協力を賜り、厚く御礼申し上げます。

災害が多く発生した平成の時代から令和という新たな時代を迎え、多くの人は、安心・安全で災害や事件・事故の少ない平穏で活気に満ちた時代になってほしいと願ったことと思います。しかし、そんな願いは台風19号豪雨災害によって打ち砕かれました。河川の増水によって千曲川流域では、氾濫被害が広がり未曾有の被害をもたらしました。お亡くなりになられた方のご冥福をお祈り申し上げますとともに、甚大な被害を受けた皆様にお見舞いを申し上げます。

立科町におきましても、人命に係わる被害はありませんでしたが、芦田観測点における日雨量(24時間雨量)は、観測史上最高の264mmを記録するなど、今までに経験した事の無いような台風が襲来し、河川や水路等からの越水により35戸の家屋が床上・床下浸水等に見舞われました。農地・農業用施設等の被害も各所で発生いたしました。被災された町内全ての皆様に対し、改めてお見舞い申し上げます。仮復旧対応は、すでに実施しておりますが、給水車による飲み水確保にまで及んだ上水道の取水量完全復活を始め、災害復旧

工事は、始まったばかりであります。多くの費用と時間を要しますが、一日も早い復旧・復興に向け、全力で取り組んでおりますので、ご理解・ご協力を切にお願い申し上げます。

国の経済も、災害の多発など様々な要因が影響し、GDP成長率が鈍化し、消費の低調など先行き不安の状況下であります。

立科町の昨年を顧みますと、梅雨の期間が長く、日照不足や低温等による農作物の生育が心配されましたが、7月下旬から猛暑日が続く暑い夏が訪れ、水稲の生育も持ち直し、果樹を含め平年並みの収穫に安堵したところであります。観光関係では、そらテラス等の効果で前年を上回るゴンドラ利用が見られましたが、年間を通しての利用は低調で、索道事業経営改善は急務であります。人口増対策や産業振興など課題は山積しております。

さて、令和2年度予算編成期に当たっての私が示した重点指針は、次の3項目であります。

**一 住んでみたい、産み育てたいと思える町づくり**

**二 安心・安全で持続可能な町づくり**

**三 豊かな地域資源を活かした町づくり**

以上の3項目を掲げ、きめ細かな子育て支援や定住・移住の推進。防災・減災対策、障がい者等の弱者対策。豊かな資源を活かし、活気ある経済の活性化を図れるよう、

第5次立科町振興計画の後期計画や総合戦略との整合を図り予算編成してまいります。来年度の町の財政は、町税や財産収入の好転は望めない状況にあり、依然として自主財源に乏しく、厳しい財政運営が続くことが予測されます。ふるさと納税の返礼などに工夫を凝らしながら、税収アップを図るなど、歳入増に努めてまいります。歳出においては、常に事務事業の見直しと効率化に努め、補助事業の活用や有利な起債がないか、常に情報を収集しながら、歳出の抑制に努めてまいります。

選挙公約でもある索道事業の経営改善については、令和2年度の冬シーズンから「公設民営」の指定管理者方式の民間手法を取り入れたいと考えており、現在仕様等について準備を進めております。

また、11月に立ち上げを予定しております「立科町まちづくり創生会議」は、災害復旧を優先したため、1月中旬以降の開催を予定しております。

今年度は東京オリンピックが開催され、町がホストタウンになっているウガンダ共和国は、陸上競技中長距離種目でメダル獲得が期待されております。当町でトレーニングを積んだ選手活躍を応援しながら、立科の子どもたちが交流を深め、国際感覚を養う良い機会となることを期待しています。

結びに、町民皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。